

①南阿蘇鉄道沿線地域のまちづくり戦略としての観光拠点化について _ まちづくり戦略の柱である定住・観光の視点からの創造的復興の提案 _ 1

時間をかけてみんなで考える高森の未来の提案について

[地域に根ざした高森のシンボル] 地域住民によって長く愛されてきた高森駅を再開発することは、高森町の復興のシンボルであり、活気ある未来を考えることにつながります。本提案では、短期的な活性化をねらうのではなく、5年、10年、15年と長い時間をかけることで、地域に根ざした高森のシンボルをつくと共に、変化を受け入れながら成長する広場づくりを目指します。

[ヒトのデザイン、コトのデザイン] 新高森駅は、鉄道の利用者だけではなく、地域住民が日常的に利用できる駅舎とします。定住者・観光者が、気軽に情報発信や情報交換などができるように、カフェやゲストハウスを計画します。先走り型ファシリテーター「もじゃもじゃさん」によって、新しいまちの井戸端会議所をつくります。

みんなで育てるまちの風景：やぐら × ミニツカ = たくなるスポット

[たくなるスポット] 広場のデザインは、様々なエリアをつくり出す小さな塚「ミニツカ(塚)」と、活動のきっかけとなる居場所をつくり出す「やぐら」によって構成されます。「ミニツカ」と「やぐら」によってできる「スポット」は、自然と何かをしたくなる、(〇〇したくなる)スポットとして、広場を訪れる人の活動を誘発します。また、低層の建物が広がる高森町に、高さのある「やぐら」によって新しい風景を生み出します。



駐車場
コスト低減に配慮し、既存の駐車場を使用します。部分的にアルファルトを植栽ブロックにすることで、周辺環境に調和させます。

やぐら
やぐらによって、様々な活動のきっかけを作り出します。やぐらは、光や風や活動に応じて型を変え、楽しい居場所を作ると共に、新しい広場のシンボルとなります。

既存駅舎の塔のみ再利用します。

半外部空間
新しい高森駅の計画では、積極的に日陰を作り、誰もが使える場所を増やします。

タープ
タープによって広場全体に日陰を計画し、イベントに応じて付け替え可能とします。

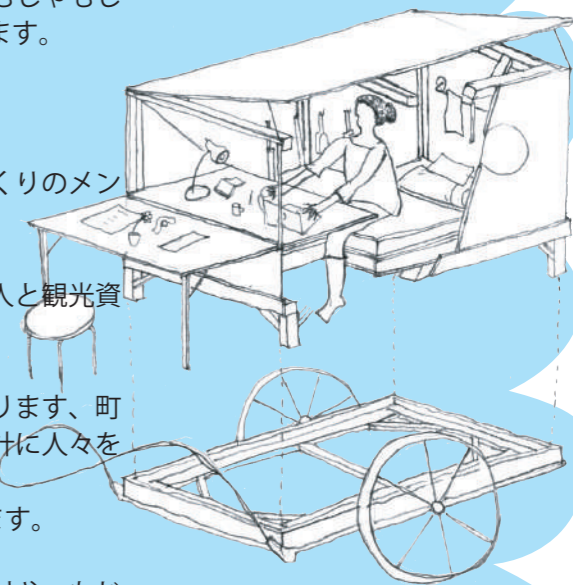
ステージやぐら
既存のステージ屋根を再利用し、まちのゲートを作ります。

湧水ポイントによる水の道
高森の豊かな水源を活用し、涼しく遊べる水景を作ります。

ミニツカ
広場のデザインは「ツカ(塚)」によって、ゆるくエリアを作り出します。

先走り型ファシリテーター「もじゃもじゃさん」参上!!

- **もじゃもじゃさん、現地へ**
設計の前段階より現地スタッフ・通称「もじゃもじゃさん」(以下 MJ)が高森町に乗り込みます。
- **MJ が住む**
MJ は高森町で住み始めます。
- **MJ は町民です**
MJ は設計者の一人でありながらまちづくりのメンバーになり、町民の意見を聞きます。
- **MJ はゲストハウス(移住体験)の管理人**
MJ はゲストハウスの管理人として、旅人と観光資源と町民を密につなげます。
- **MJ は専門家**
MJ は建築とものづくりの専門家でもあります、町民 WS に始まり、やぐら作りや建築設計に人々を呼び込みます。
また、新規定住者へのアプローチも行います。
- **MJ はインキュベーター**
高森で新たなビジネスをおこす際の手助けや、もじゃ号を使ったポップアップ店舗の補助をします。



移動式コミュニティスペース
もじゃ号・タイプゼロ

“やぐら×ミニツカ=たくなるスポット” による駅前づくり

①南阿蘇鉄道沿線地域のまちづくり戦略としての観光拠点化について _まちづくり戦略の柱である定住・観光の視点からの創造的復興の提案_ 2

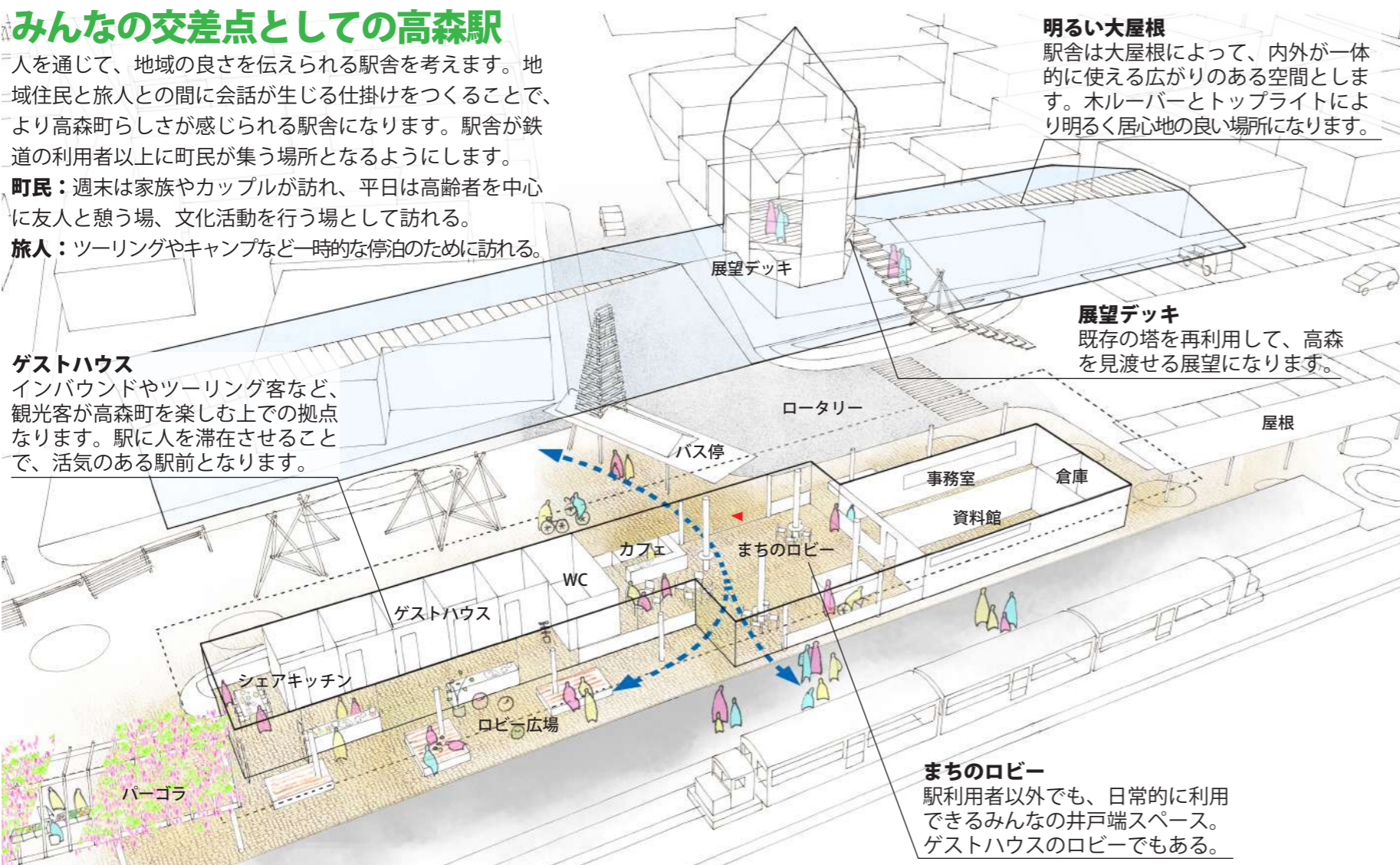
みんなの交差点としての高森駅

人を通じて、地域の良さを伝えられる駅舎を考えます。地域住民と旅人との間に会話が生じる仕掛けをつくることで、より高森町らしさが感じられる駅舎になります。駅舎が鉄道の利用者以上に町民が集う場所となるようにします。

町民：週末は家族やカップルが訪れ、平日は高齢者を中心に友人と憩う場、文化活動を行う場として訪れる。

旅人：ツーリングやキャンプなど一時的な停泊のために訪れる。

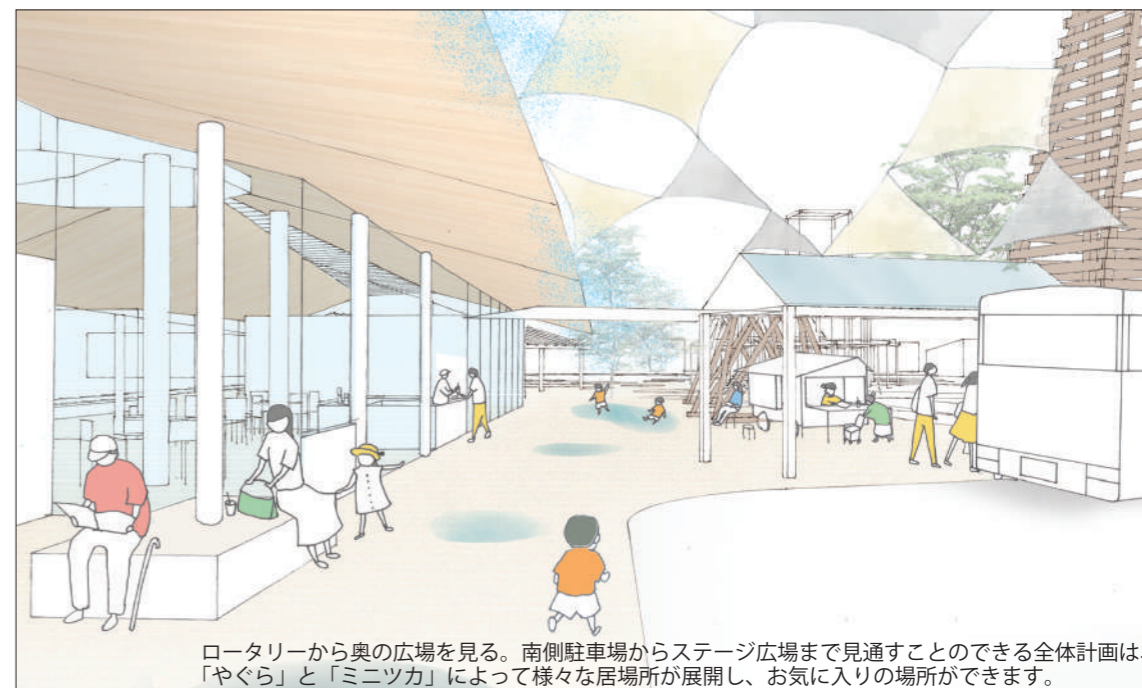
ゲストハウス
インバウンドやツーリング客など、観光客が高森町を楽しむ上での拠点となります。駅に人を滞在させることで、活気のある駅前となります。



明るい大屋根
駅舎は大屋根によって、内外が一体的に使える広がりのある空間とします。ホルーパーとトップライトにより明るく居心地の良い場所になります。

展望デッキ
既存の塔を再利用して、高森を見渡せる展望になります。

まちのロビー
駅利用者以外でも、日常的に利用できるみんなの井戸端スペース。ゲストハウスのロビーでもある。



ロータリーから奥の広場を見る。南側駐車場からステージ広場まで見通すことのできる全体計画は、「やぐら」と「ミニツカ」によって様々な居場所が展開し、お気に入りの場所ができます。

定住(なりわい)と観光(旅人)の拠点

高森駅は若者だけでなく、高齢者にとっても居心地の良い場所にすることが重要と考えます。日常的な活動から非日常的なイベント活動まで、多様な活動を受け入れる空間とします。もじゃもじゃ号を通して、高森ライフを感じられる拠点づくりを目指します。

【定住：なりわい】

- ・若者支援／アクティブシニアの情報発信
- ・習慣（新しい価値観）
- ・人材教育（ICT化）
- ・まちの保健室
- ・子育て相談室

【観光：旅人】

- ・市場のような空間（マルシェ）
- ・ゲストハウス（まちの寄合所）
- ・シェアキッチン
- ・グランピング
- ・もじゃ号

日常的な活動



非日常的な活動

旅人と高森町・町民をつなぐ「もじゃもじゃ号」のお仕事

【ゲストハウスの管理人】

もじゃもじゃ号は、ゲストハウスの管理人として旅人と高森を密につなげます。

- ・観光案内を補佐します。各観光施設／協会／商工会や官公庁と連携をはかり、より自由で密度の高い高森タイムを提供します。
- ・旅人と共にイベントに協力します。もじゃ号を使い各地域イベントに参加し、旅人が地域に移住体験できるシーンを増やします。
- ・様々なタイプのもじゃ号の貸し出しを行います。

密接な関係イメージ



移住体験によるもじゃもじゃツアー

【高森駅から地域へ 定住へ繋がる観光体験】

ゲストハウスから地域へ、旅人を案内します。旅人はイベントに参画することで、移住体験ができます。



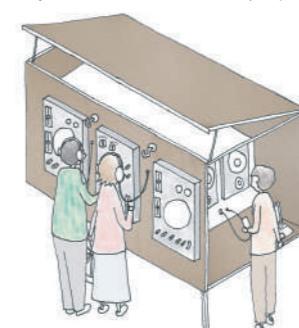
【もじゃ号の製作と普及活動】

もじゃ号は、様々な活動を誘発する移動可能なマイクロスペースです。様々な用途のために製作／使用されます。

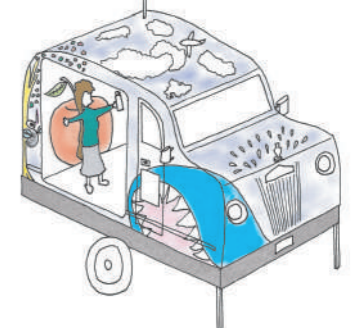
- ・MJのサテライトオフィス
- ・町の簡易寄合所・ポップアップショップ
- ・イベントスペース・レンタサイクル ...etc



寄合所タイプ



ポップアップタイプ
高森町市街のお店や町外の方のチャレンジショップとして想定。



イベントタイプ
アーティストの活動場所や移動アトリエを想定。

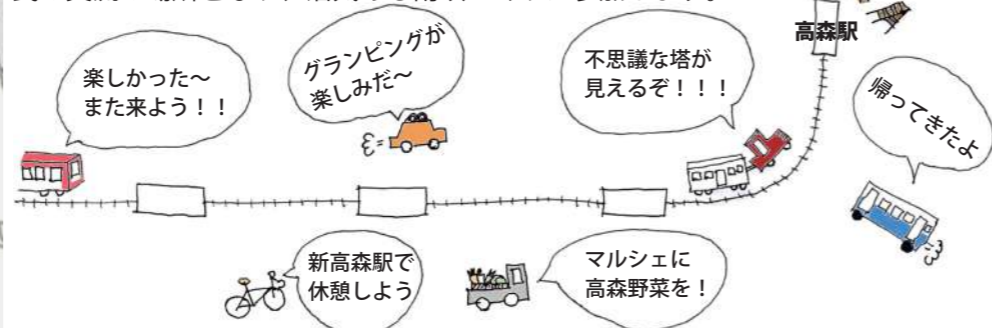
②南阿蘇鉄道の起終点となる「高森駅」の防災拠点化_ 駅舎及び駅周辺広場における大規模災害を想定した防災拠点の考え方



③町の玄関口としての駅舎及び周辺整備_ 町民の生活を支え、まちの元気を生み出す交流拠点の考え方

南鉄の終着駅(ターミニ)としての新しい顔

日常生活・観光の交通手段として重要な南阿蘇鉄道(南鉄)を復旧させることは、高森町民の生活の支えであると共に、心の支えでもあると考えます。中でも高森駅は、南鉄復旧のシンボルとして、「いつてらっしゃい!」「お帰りなさい」が聞こえる駅を目指します。「やぐら」による風景は高森駅に新しい顔を作り出し、「ミニツカ」によって多くの人を受け入れられる広場を実現します。また、ゲストハウスやカフェは観光客と町民の交流の場所となり、活気ある南鉄づくりに参加します。



たくなるスポットをつくる「やぐら」のタイポロジー



車窓からの眺め

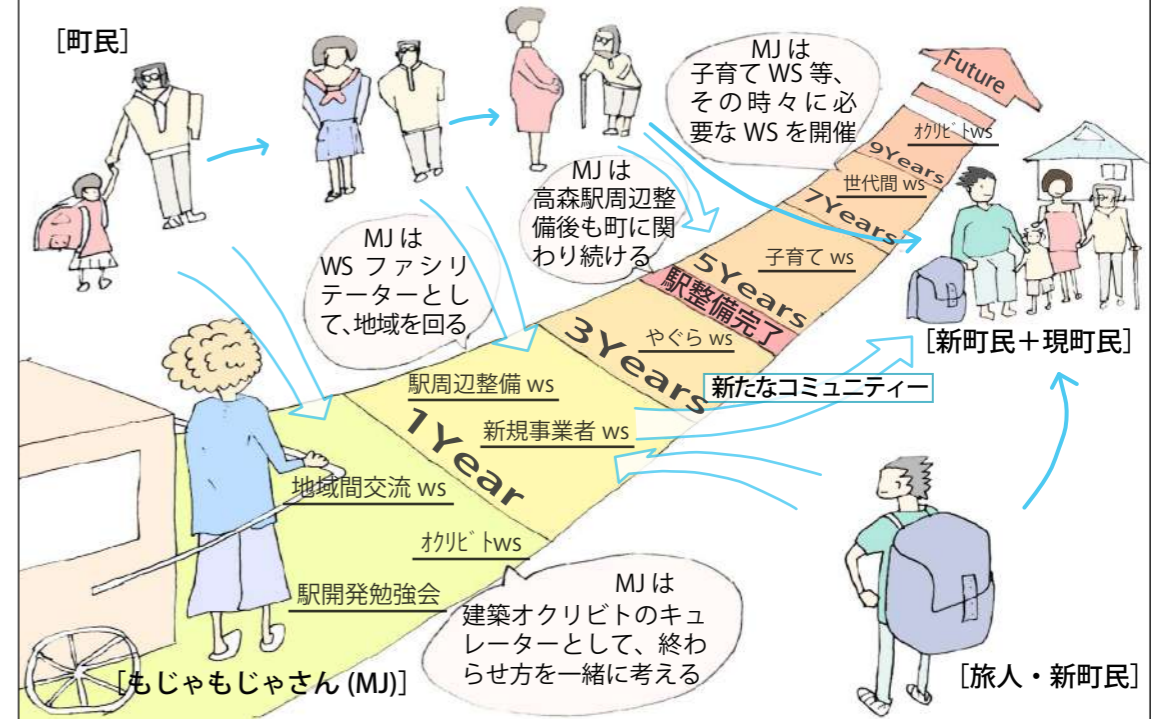
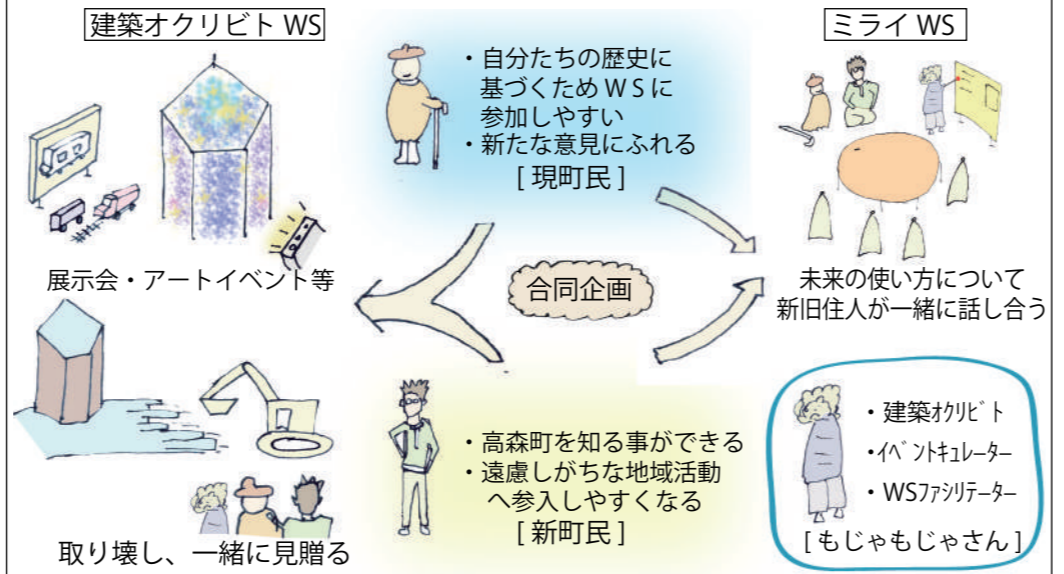
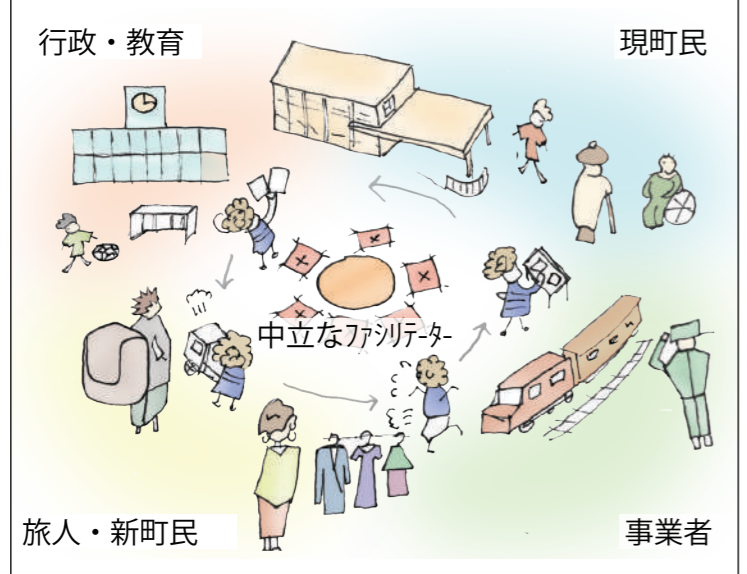
④「みんなで考えるまちづくり」を実現するための手法_ワークショップ等、透明性を高め、広く町民の意見を取り入れるための具体的な手法の提案

「すべての町民」で議論できる場をつくる、もじゃもじゃさんのお仕事

【個人/団体/立場を越えて駆けつけるファシリテーター】
設計の前段階より、ファシリテーターとしてじゃもじゃさんを派遣します。様々な団体・施設・個人に対し積極的にアプローチを行い、WSへの参加を促します。中立的な立場であるもじゃもじゃさんは、個人/団体/立場を越えた対話の場をつくりま

【終わらせる事から始めよう!!「建築オクリビト」】
「建築オクリビト」とは、古くなり立て替えや取り壊しが決まった建物に対して、その場の歴史を振り返る展示会やアートイベントを行い、地域住人と共に建築に「さよなら」を言うイベントです。終わらせ方から考える事で、未来のビジョンがより具体的に町民に共有されます。また、新町民(新規定住者)と現町民とが一緒に建築や場所について考える機会となります。

【成長するWS/整備後も関わり続ける設計チーム】
もじゃもじゃさんは、高森駅周辺の整備後も地域に駐在し、まちづくりWSを続けます。高森町全体、ひいては地域全体をどのように「成長/維持/管理」していくかを考えます。世代や町内/町外を越えたまちづくりを行うために、その時々に必要なWSを企画し開催します。

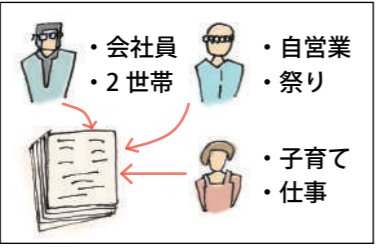


町民が愛着をもてる施設とするために、これまでの設計チームの活動経験を生かしたWS手法

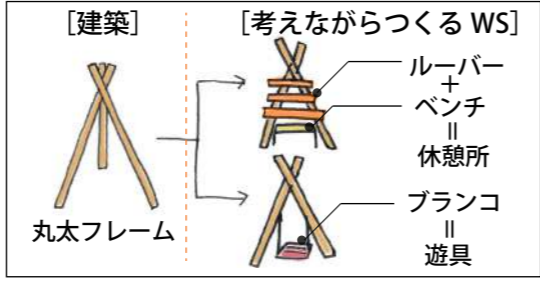
【対話型的设计プロセスのためのWS手法】
利用する人々と同じ目線を考える、対話型的设计プロセスとします。特にWS毎のフィードバックを重視し、各WSで何が行われ、何が生まれたのかを整理し、多角的に発信します。

【高森駅を考えながらつくる】
高森駅にどのような場所が欲しいかを、WSで議論します。大枠を決めた後、やぐらの丸太フレームのみ先に建築します。その後、実際に町民と使い方を考えながら、みんなでカスタマイズ・更新していきます。

STEP1. 関係者と相談した上で、街のキーパーソンの方に個別にヒアリングを実施。現在、高森町で必要とされているWSプログラムを徹底的にリサーチする。

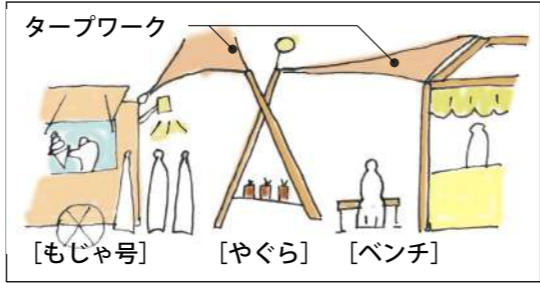
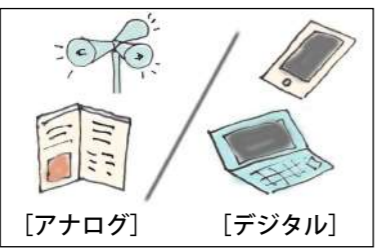


STEP2. 街の声を反映した内容のWSプログラムを実施。「駅前」ではなく、高森町の「まちの中心地」とは何かを町民と一緒に考えるWSを行う。



一時的に大規模な集客が発生する時期は、やぐらの一部やもじゃ号を簡易店舗として使います。また、やぐら同士を繋ぐタープワークにより、流動的な外部空間を生み出します。

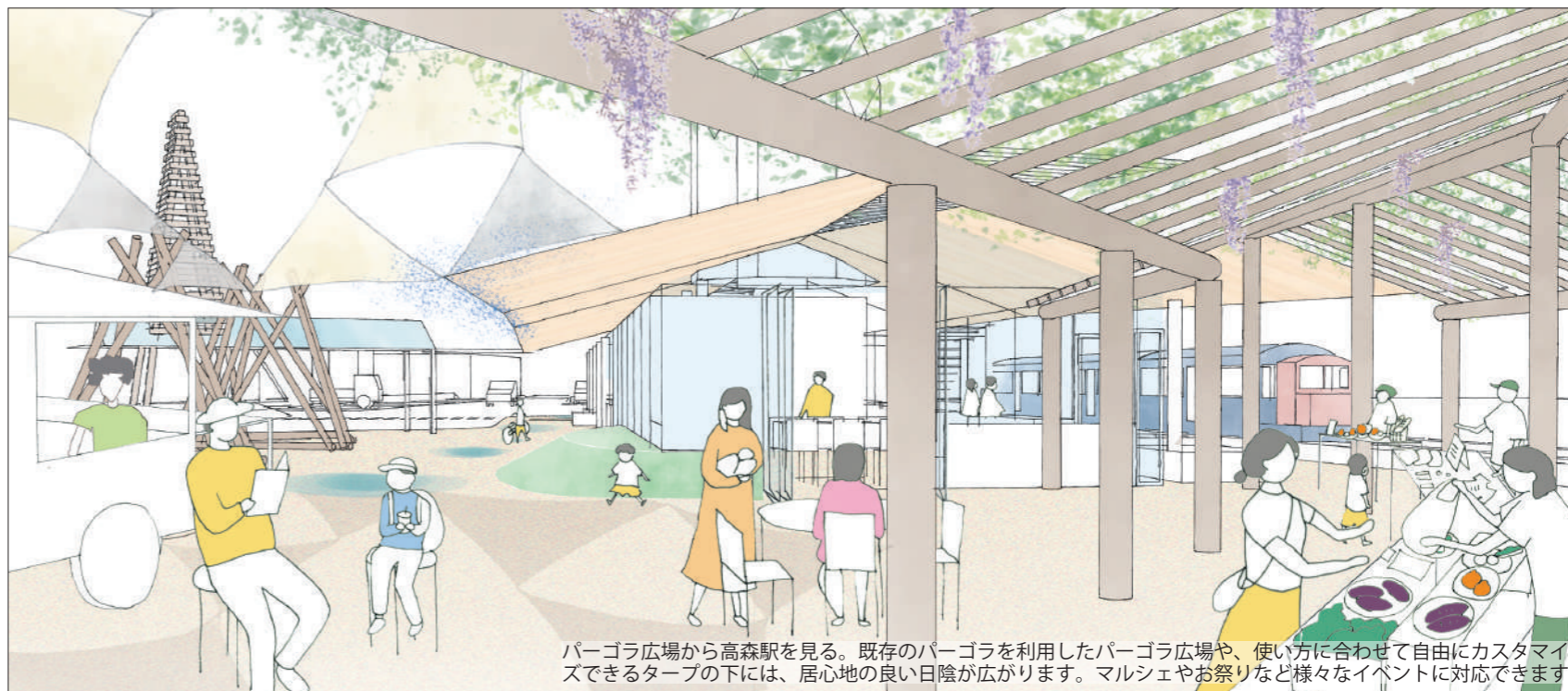
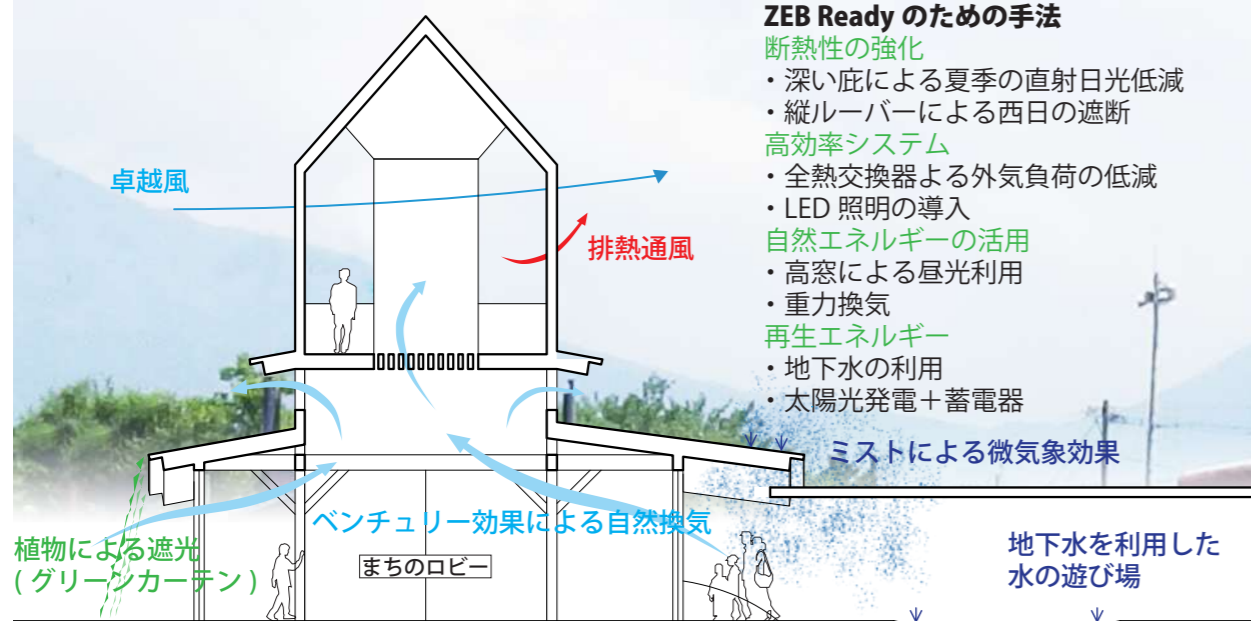
STEP3. WSの成果を整理し、必ず次回へフィードバックさせる。形ばかりのWSは行わない。また、WSの内容については、SNS等も利用し多角的に発信する事で、透明性を担保する。



⑤ユニバーサルデザイン・環境・省エネ・コスト_バリアフリー・ユニバーサルデザイン、環境負荷の低減に配慮し、ライフサイクルコストの縮減も図ることのできる施設整備の考え方

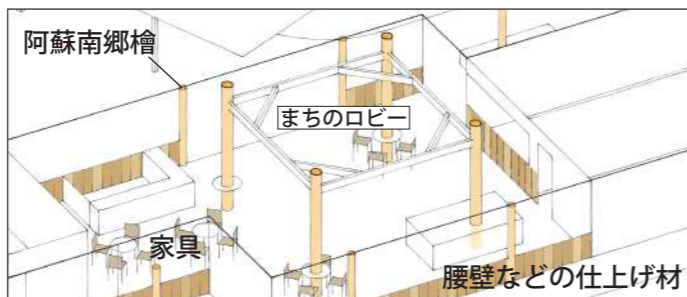
高森の自然に順応した環境的なカタチ

深い庇によって夏の強い日差しを遮り、冬の日差しを建物内に取り込みます。塔によって風が通り抜ける際に生じる吸引効果により、駅舎内に空気の流れを作ります。自然換気・採光、LED照明の利用など、ランニングコストを可能な限り縮減しながら、機械空調に頼りすぎない快適な環境を形成します。



阿蘇南郷檜による温かみのあるシンボリックな木質空間

家具から構造材まで、全て地元産材を使用します。地元の技術力を最大限活用できるように、断面を240mm以下におさえ、全て一般に流通している地元産の無垢材を使用します。阿蘇南郷檜をロビーに使用し、高森町らしさを表すと共に、木の温かみのある居心地の良い空間とします。



地元材を利用した木質ランドスケープ

駅舎、広場計画には可能な限り地元材を使うことで、建設コストを低減すると共に、高森らしさを促します。外構は、丸太を製材した際に出る端材や木チップを活用した木質ランドスケープとします。地元材の利用率を高め、町民が親しみの持てる広場計画とします。

